左からオーナートリマーの松林智宣さん、トリマーの佐藤恵里子さん。

MyStyle

Vol.17 “トリマー”という可能性

編集部が今回訪れたのは、大分県国東市の「Dog Bloom」。
オーナーの松林智宣さんは、ペットカット・コンテストで
2度の理事長賞を受賞した異色のトリマー。
そのトリミングへの深い想いをうかがいました。

text：trim　photo：中村陽子

白と赤を基調とした店内には、カラフルなウエアやおやつなどが並んでいます。

妥協を許さない職人に憧れ犬の世界へ

「もともと競輪選手を目指して専門の高校に通っていたのですが、プロへの壁は高く、一度は会社員になりました。ただ、両親がバセット・ハウンドをショーに出していたこともあり、その後、トリマーに方向転換しました」

実家が飲食業だったという松林智宣さんは、妥協をしない料理人の厳しさ、すばらしさに憧れていたといいます。

「昼間はペットショップで働きながら、夜は大分市内のトリミング学校へ通いました。学校で2年、卒業してからもアメリカン・コッカーの先生について勉強を続け、約5年かけてJKC公認トリマーA級を取得しました。」

その後は、地元・国東市内に町で最初のトリミングサロンをオープン。

「国東は人口1万5千人ぐらいの小さな町なので、最初のうちは嫁さんに食わしてもらっていました(笑)。でも、ここは小さな町のわりに意識の高い人が多い。犬には人を引きつける魅力があることはわかっていたので、必ずうまくいくと思っていました。売り上げも目標のひとつですが、儲かってもたかがしれている。それより自分の表現を極めることやお客さんと一緒に活動することが、自分にとっては大切だと思いました。」

勝負に勝つのは最も犬を愛している人

コッカーからテリアに転向した松林さんは、JKCトリミング競技大会で確実に結果を残す一方で、2009トリミングフェスティバルと2010ドッグビューティーコンテストで、2度の理事長賞に輝きました。ミニチュア・シュナウザーに大胆なカラーリングと緻密なカットを施した「KIRIN Sun」、全身の被毛を独自の技法でフリンジのようにカットした「KAZARIBASAMI蛇腹」。作品の持つ強烈なインパクトに、衝撃を受けた人も多かったのではないでしょうか。

「自分の通っていた学校はJKC関連校ではなかったので、ドッグショーや競技会に行っても話をする友だちや知り合いはいなかった。自分はショートリマーではないので、どこの門下生でも一派でもない。ただ無言でモノをつくるだけ。でも、だからって周りから『そんなんじゃ無理じゃない?』って思われるのは悔しかった。偽者がどうやって戦うか、いまに見てろよって感じ(笑)。でも、競技会に出場している相手は、ともに戦う仲間です。一生懸命やっている者同士だから、勝っても負けても相手のいいところはわかる。また、A級を取るころに感じたのは、勝負の差は技術だけではなく、どれだけその犬種を愛しているかということ。出場者のなかでいちばんその犬種を愛している人が勝つ、というのは間違いないと思いますね」

そして、松林さんはJKC主催のペットカットの競技会に、愛犬ランディーとともに出場します。

「ペットカットの競技会には、ショードッグではなく、いつも一緒に寝ているような犬で出たかった。そういう犬を日本一にしてやりたかった。ただ、表現方法とかアイディアって、無理やり考えても浮かぶものではない。『KIRIN』も『KAZARIBASAMI』も、モデルが愛犬ランディーだったからこそ生まれたものなんです」

では、松林さんの独特の感性・表現は、どうやって生まれたのでしょうか。

「彫刻であれば木や石が表現の素材になりますが、自分たちの素材は犬です。まず犬そのものを知ってから構成を組み立てていく。アメリカの作品も見てきましたが、自分は日本人なので、小さなものにありったけの技術をつぎ込む方が得意。『KIRIN』は、テレビで戦隊モノを見ていて思いつきました。キリンレンジャー(笑)。感性は日常生活のなかでも磨いていけるもので、田舎にいると育たないというわけではない。流木や岩山のダイナミックさとか、渓流の流線型とか、手本になるものは自然のなかにたくさんある。だから、自分にしかつくれないものはまだまだあるはずだと思っています」

職人らしい緻密なデザインカットを得意とする「Dog Bloom」のオーナートリマー・松林智宣さん。

{ 理事長賞受賞のデザインカット }

「KIRIN Sun」(JKC2009トリミングフェスティバル)

「KAZARIBASANI 蛇腹」(JKC2010ドッグビューティーコンテスト)

店内に飾られていたチョコエッグ・ペット動物シリーズ。

競技会は最終目標ではなく、その時々の通過点のようなもの。

松林さんたちが行っている「うんち旗大作戦」。

「自分が勝手に尊敬しているのは「テリアージュ」の浅野さんです」と話す松林さん。このケリー・ブルー・テリアも浅野さんから預かりさせていただいているとか。

トリマーという職業の魅力を広めたい

競技会を目標にトリミング技術や感性を磨く一方で、松林さんにとって欠かせない活動がもうひとつあります。お客さまと一緒に続ける、動物飼育の啓蒙活動です。

「動物愛護推進員の方や仲間たちと行った、うんち旗大作戦(笑)。道端に落ちているウンチのそばに、『うんちダメ!』などと書いた紙を焼き鳥串につけて刺していくんです。直接注意すると角が立つけど、これならどちらも心が痛まない。そうすると、次からは片付けてもらえるようになるんです」

松林さんたちは、毎年「くにさきチャリティードッグフェスタ」というイベントにも積極的に協力しています。

「ドッグフェスタでは、犬のお手入れ実演や相談などを行っています。それ以外にも学校に犬を連れて行って、子どもたちに犬という生きものを知ってもらうという活動を行っています。『今日はうまくいかなかった』なんて日もありますが、子どもたちに喜んでもらえれば自分たちも楽しい。泣きながら動物の命の大切さを訴えることは、残念ながら自分には向いていないので、犬と子どもたちと楽しく時間を過ごすことで、将来『犬が好き!』という人間を増やす種を蒔いていきたいと思っています」

競技会に、動物啓蒙活動にと、つねに全力疾走を続ける松林さんに、今後の目標をうかがってみました。

「犬のトリミングにはアートな可能性が秘められているので、それを追求していきたいですね。『形を変えていく犬をどう表現するか』が今の自分のテーマ。もっと芸術的な観点から、犬の可能性を探っていきたいと思っています。また、競技会は最終目標ではなく、目の前にある目標にすぎません。競技会で結果を残すことは、お店に協力してくださる方々への恩返しのひとつだと思っています。最終的には、この地域の飼い主さんの意識を向上させるだけでなく、元気なトリマーが増えてほしい。また、子どもたちにトリマーという職業をもっと理解してほしい。トリマーは犬を洗うだけでなく、いろいろな可能性を秘めた職業。また、トリマーにしかできないこともたくさんある。『将来、トリマーになりたい!』と思ってくれる子どもがひとりでも増えてくれれば本当に嬉しいですね」

{今回のKAZARIBASAMI(P15)のポイント }

ボディー部分の毛は、市松模様風に刻んでいきます。

額や耳の模様も同じ幅にそろえます。

Dog Bloom
大分県国東市国東町田深653
Tel:0978-72-1508
オーナー独自のカット技法で脚光を浴びつつも、じつは地域密着度の高いトリミングサロン。飼い主さんとともに成長していくサロンを目指している。

trim18_00-00_Mystyle.indd 12-13
11/12/05 15:09

テリア本来の毛質をキープしつつ頭部の飾り毛でアピール

Model：シーザー／レークランド・テリア／♂／5歳／7kg／レッド／
Owner ＆ Trimmer：松林智宣
Point：定期的にプラッキング（ローリング）している子なので、スタンダードに近い正統派スタイルに仕上げました。頭部に飾り毛を立てることで遊び心をプラス。全体的にシャープにまとめることで、活発なイメージをもたせています。

back

ボディーの毛はプラッキングにより、本来の毛色・毛質につくり上げています。

side

尾はやや先細にして、力強さを表現しています。

front

頭部の毛を立たせることで、ラフで活発なイメージに仕上げています。

繊細な技法で浮かび上がる動くトライバル・タトゥー

Model：ランディー／ミニチュア・シュナウザー／♀／8歳／7kg／ブラック／
Owner ＆ Trimmer：松林智宣
Point：コンテスト出場の際、プードルの造形美に見劣りしないよう考えたスタイルが元になっています。毛の流れを絶つようにシザーを入れた「KAZARIBASAMI」という、独自の技法で浮かび上がった模様は、犬の動きと連動して生きた模様となります。

back

尾の先まで細かくKAZARIBASAMIを入れることで、全体の統一感を出しています。

side

体にブラックのカラーリングをすることで、模様がより鮮明に浮かび上がります。

front

顔はシュナらしくシャープに。前肢、耳、胸にも細かくKAZARIBASAMIを入れています。

trim18_00-00_Mystyle.indd 14-15
11/12/05 15:09